

# 八戸地域漁業復興プロジェクト

青森県八戸市

事業実施者：青森県旋網漁業協同組合

使用船舶名：第六十三惣寶丸船団(279トン)

支援期間：平成23年5月1日～平成26年4月30日

(大中型まき網漁業)

## (取組の内容)

- 船団のスリム化：4隻(52名)体制から3隻(42名)体制へ移行(運搬船1隻を削減)し、生産コストを削減
- 居住環境の改善：新ILO基準に準拠した居住環境を整備し、労働環境改善と乗組員の安全を確保
- 資源管理の推進：漁獲量の削減(18%)を図りつつ、付加価値製品を生産し、採算ラインを確保
- 付加価値製品の開発：セミエアブラスト式ラック凍結庫(管棚凍結庫)の新設  
高付加価値製品(さば・いか等刺身商材)の開発
- 船凍製品の開発：ブライン凍結庫を新設し、かつお等の船凍製品を開発
- 地産地消の促進：商工会議所と連携しつつ、生販一体となったブライン商品の開発及び  
地産地消の促進並びに高品質船凍品の販売拡充



## (事業の成果)

- 船団のスリム化により、**燃油消費量は計画を77kl(約9%、3年平均)上回る削減**
- 労働環境の改善を図るとともに、新網捌き機を導入。習熟に努め、42名体制で操業できることを実証。
- 水揚量は計画(8,133トン、3年平均)を1,878トン(23%、3年平均)下回り、水揚高も計画(1,073百万円、3年平均)の77%(865百万円、3年平均)にとどまったが、**3年目で償却前利益48百万円を確保**
- 八戸前沖さばとなる500g以上の大型サバを選別して、船凍サバ(ブランドサバ)を開発した。  
販売単価は、207円/kg
- かつお船凍製品は3ヶ年平均で128百万円を販売した。